

令和6年度 3学年授業改善プラン

大田区立矢口小学校

1. 昨年度の授業改善プランの検証

- 【国語】自分の経験や想像を言語化し、ペアやグループで伝え合う活動を充実させた。
- 【社会】資料を基に読み取った情報を言葉で表現する学習活動を充実させることができた。
- 【算数】基本的な問題の習熟の個人差が大きい。単元の導入の仕方を工夫したり、数学的な表現によって説明する場面をより多く設定したり、多様な解決方法を知る活動を増やしたりことで、より意欲的に課題に取り組む姿が見られた。
- 【理科】矢口自然農園を中心とした自然と触れ合う体験的な活動を取り入れていることで、植物や生物の体の仕組みや育ち方に関心を持ち、主体的な取組につなげることができた。

2. 各教科の授業改善プラン

【国語】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆漢字を正しく読み書きする能力が一部高い子もいるが、全体的に見ると低い傾向にある。 ○既習の漢字をできるだけ普段から使うよう指導する。	◆自分の思いや考えをまとめる力に個人差がある。 ○物事に対して筋道を立てて考えられるように日頃から指導する。	◆自分の思いや考えを伝え合おうとする態度に差がある。 ○発表が苦手な児童にはノートを通して思いや考えを伝えられるよう指導する。

【社会】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆楽しく調べているが、肝心の指導内容が身に付いていない児童がいる。 ○授業者が知識の構造図を読み解いてから授業に臨む。	◆地図や図表などから情報を読み取る力の個人差が大きい。 ○資料の加工や提示の仕方を工夫する。 ◆子ども同士の交流が少ない。 ○対話的な学習活動が活発に行われるようペア学習やグループ学習を積極的に授業に取り入れる。	◆児童の知識や経験の差が意欲にも影響している。 ○生活科との接続や対象地域の拡大、地域教材の有効的な活用に留意する。

【算数】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆基本的な問題の習熟の個人差が大きい。 ○習熟度別学習で、児童のつまづきを把握して、教員間で共有し、各コースの指導の改善に繋げる。また、タブレットを活用して個々の習熟度に応じた問題に継続的に取り組み、知識・技能の定着を図る。	◆数学的な表現を用いて、説明する力の個人差が大きい。 ◆問いの文章が理解できない児童が一部いる。 ○自分の考えを文・図・式などを用いて整理し、友達に伝えたり、全体に発表したりする活動を多く取り入れていく。	◆苦手意識が強い児童が一定数存在する。 ○単元の導入の仕方を工夫したり、具体物を用いたり、タブレットを活用したりして、日常生活と算数との関わりにも目を向けさせ、興味・関心を高めていく。

【理科】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆ 観察や実験を経験しても問題として問われた時に答えることができない児童がいる。 ○单元ごとに練習問題に取り組み、経験したことを知識や技能として身に付けさせる。	◆ 観察や実験をしたことに対して考察を書くことが苦手な児童がいる。 ○観察や実験を通して差異点や共通点をグループで話し合い考察させる。	◆ 理科の学習に対して苦手意識のある児童がいる。 ○I C T機器やデジタル教材を用いて児童の関心意欲をもたせる。また、学習内容と生活経験を関連させて考えさせる。

【音楽】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆ リコーダー実技について、基本事項は概ね習得できている。 ○児童同士による協同的学習の時間を増やしていく。	◆ 思いや意図をもって表現を考える経験が少ない。 ○曲想に関する事項の学習機会を増やし、実際の演奏に生かしていく。	◆ よい音楽に触れる機会が少ない。 ○I C T機器を用いるとともに、よい演奏を多く鑑賞していく。

【図画工作】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆ 材料と道具の正しい使い方の基礎を定着させる必要がある。 ○けがが起きないように材料や道具の正しい使い方を丁寧に指導し、定着させる。	◆ 材料の多様な使い方に頭を悩ませる児童が多い。 ○様々な材料を豊富に用意したり、協同作業を通したりして、発想力を養っていく。	◆ 作品を創造することに対して意欲的でない児童の支援が必要。 ○丁寧な期間指導、個別指導の計画を綿密に立て、授業内で支援していく。

【体育】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆ 運動経験の少なさからマット運動・とび箱などの技能を求められる運動への苦手意識がある。 ○運動量の確保を意識した授業展開で、運動に触れ合う機会を増やす。	◆ 自己の課題を把握し、解決の仕方を見付けて意図的に取り組むことができる児童が少ない。 ○学習カードを活用し、自分に合った目標を設定しながら運動できるようにする。	◆ 運動への苦手意識から課題に取り組まなかったり、すぐにあきらめてしまったりする児童がいる。 ○デジタル教材を活用し運動のポイントや動きを示し、見通しをもたせる。